

出前授業で教育啓発

再エネの担い手育成

インフラックス(東京都港区、星野社長)は、再生可能エネルギーの教育・啓発活動に力を入れている。洋上風力発電事業を計画している地域では、洋上風力を中心とした未来の街づくりについて、

様々な層の住民と対話を重ねてきた。こうした取り組みに加え、洋上風力計画がない地域でも、高校生を対象にした出前授業を実施した。ビジネスを度外視して、将来の再エネ産業の担い手育成に貢献していきたい考えだ。

洋上風力事業を検討している佐賀県唐津市では、地域住民が参加するワークショップや勉強会を開催している。

これまでに漁師、高校生、社会福祉団体、観光協会、婦人会を対象に5回実施。未来の街づくりに洋上風力をどう生かすかについて、住民の意思形成の専門家も交えながら、知恵を出し合った。

今後は参加する層をさらに広げ、4月には地元企業を対象にワークショップを開催する

インフラックス

市川氏の話に耳を傾ける生徒たち



計画。ワークショップの責任者を務める片山雅弘執行役員は、サブライチエーンのイメージを話し合うことで「参入を目指す地元企業の足掛かりを築きたい」と意欲をみせる。

初の出前授業は2月22日、大阪府高槻市の高槻中学校・高校で、

ることによる悪影響、漁師たちの声、ブルーカーボンの重要性、カーボンライシキングの動向などを紹介。環境問題について学ぶことが、社会課題の解決に役立ち、将来の自身のキャリア形成にもつながることを伝えた。

高槻高校の出前授業講師を務めた市川悠・洋上風力プロジェクト管理部長は「環境問題が社会にどうつながっていくかを身近な問題として考え、知るきっかけをつくってあげられて良かった。生徒

たちの次に つながる興味・関心を掘り起こすことができたと「思う」と振り返った。

今後は未定だが、再エネ教育の観点から活動を広げていく方針。長期的視点で再エネ産業の未来に貢献するとの考えから、その地域に自社の洋上風力計画があるかどうかを問わずに出前授業を開催する。